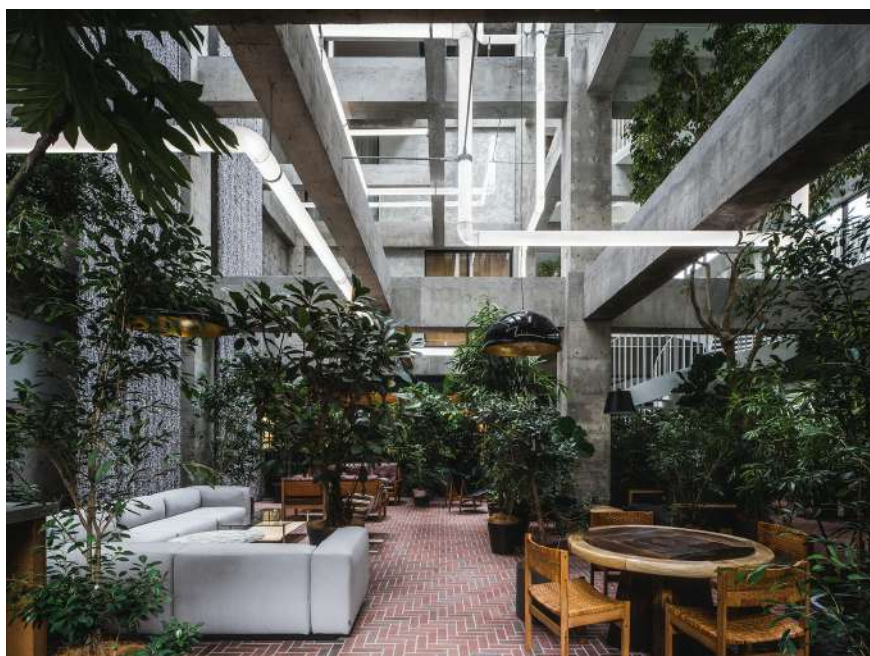


前橋に新たなアートデスティネーション

『白井屋ホテル/SHIROIYA HOTEL』2020年12月12日（土）開業
11月4日（水）より予約開始

白井屋ホテル株式会社（本社：群馬県前橋市本町、代表取締役：矢村功）は、「白井屋ホテルの開業日を2020年12月12日（土）に決定いたしました。これに合わせ、宿泊・料飲予約受付を2020年11月4日（水）より開始しております。

ご予約先：www.shiroiya.com



「前橋のまちなかを活性化したい」その思いに国内外のクリエイターが集結。かつて絹産業でイノベーションを興し日本近代化の先駆けとなった前橋において、300年以上もの歴史を誇っていた白井屋旅館が幕を閉じたその跡地に、暮らす人と訪れる人が集い、交流するリビングルームのような、新たなアートと食文化の発信の場（デスティネーション）が生まれます。

2016年8月に前橋市が官民一体となってビジョン「めぶく。」を発表したのを契機に、かつて衰退していた中心市街地「まちなか」では少しずつ魅力的なお店やコミュニティスペースなどが誕生し、中核地方都市の活性化モデルとして「前橋モデル」が注目を集めています。「白井屋ホテル」はその「まちなか」の中心に位置し、訪れる人の想像力を刺激する場「アートデスティネーション」として誕生しました。全体設計を手掛けたのは建築家の藤本壮介。旧白井屋の建物を大胆にリノベーションしたヘリテージタワーと、利根川の旧河川の土手をイメージして新築されたグリーントワーの2棟から構成されています。またレアンドロ・エルリッヒによるインスタレーションをはじめ、敷地内・各客室には建築に呼応するように様々なアート作品が展示されています。食においては、ミシュラン2つ星の川手寛康シェフの監修のもと、上州の食文化と食材を活かしたメインダイニング「the RESTAURANT」から、気軽にご利用いただけるオールデイダイニングの「the LOUNGE」まで、驚きに満ちた様々な食体験をお楽しみいただけます。また、大自然や温泉を楽しめる赤城山や榛名山へも車で30分から1時間程度のアクセスです。「白井屋ホテル」からはじまるアート・建築・デザイン・食・まち・自然の体験の数々は、訪れる人の想像力を刺激します。

photo: Katsumasa Tanaka / Shinya Kigure

白井屋ホテル 概要

開業日：	2020年12月12日
所在地：	群馬県前橋市本町2-2-15 TEL：027-231-4618 URL：www.shiroiya.com
客室数：	25室 ヘリテージタワー：17室 グリーンタワー：8室
構造：	RC構造4階建（ヘリテージタワー、グリーンタワー共に）
延床面積：	2,565.46㎡（ヘリテージタワー：1,744.52㎡、グリーンタワー：820.94㎡）
施設：	ヘリテージタワー：フロント、「the RESTAURANT」、「the LOUNGE」 グリーンタワー：フィンランドサウナ、ミストサウナ
アクセス：	JR前橋駅より徒歩約15分、東京から新幹線利用で約1.5時間、車で約2時間
運営会社：	白井屋ホテル株式会社

建築 & デザイン

「白井屋ホテル」は、日本を代表する建築家、藤本壮介が本質的な新しい都市空間を模索して導き出したひとつの答えです。かつての老舗旅館のコンクリートの構造を剥き出しにした、大胆な吹き抜けが印象的なヘリテージタワー。前橋のビジョン「めぶく。」の象徴であり、旧河川の地形を活かした「土手」を模したグリーンタワー。これら2棟が、暮らす人と訪れる人にとっての集いの場、前橋のリビングルームとなるべく、藤本壮介が建築、内装の設計を主導しながら、多彩なデザイナーやアーティストとコラボレーションを展開しています。



ヘリテージタワー外観 photo: Shinya Kigure



グリーンタワー外観 photo: Shinya Kigure

アート

「白井屋ホテル」では、独創性のある建築、多彩なアートやデザインを至るところで堪能できます。国道50号線側のファサードには、一際目を引くローレンス・ウィナーの大胆なアート、入館するとすぐフロントでは杉本博司の「海景」がゲストをお迎えします。またヘリテージタワーの4階までの吹き抜けには、金沢21世紀美術館の常設作品や森美術館の展覧会などでも話題のレアンドロ・エルリッヒによる幻想的な光を用いた「Lighting Pipes (ライティングパイプ)」をはじめ様々なアートが展示されています。またグリーンタワー頂上の小屋には宮島達男の作品が展示され、宿泊客のみが体感することができます。

ヘリテージタワー、グリーンタワーにある全ての客室では、群馬を拠点に活動する作家の作品、ホテル開業に合わせて世界中から厳選した作品など、それぞれ個性ゆたかなアートをお楽しみいただけます。



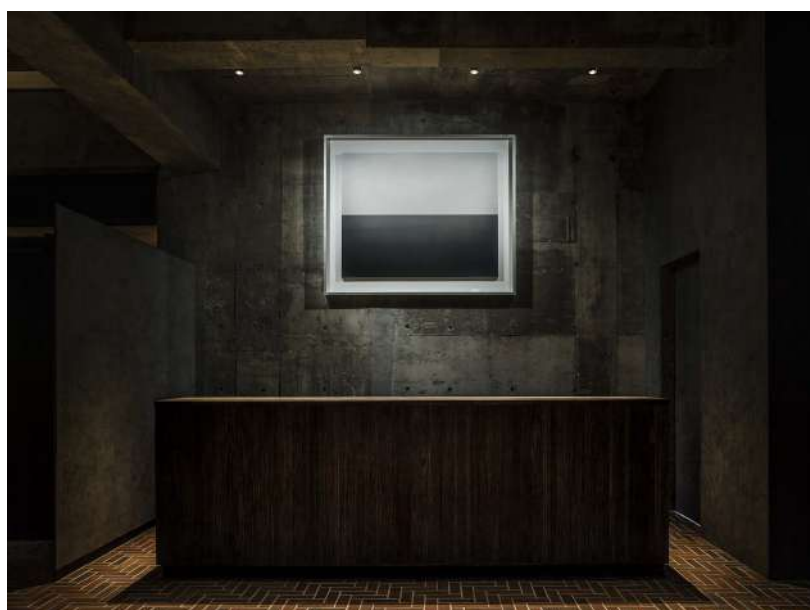
ローレンス・ウィナー / ヘリテージタワーのファサード

photo: Shinya Kigure



レアンドロ・エルリッヒ
ヘリテージタワーのラウンジ吹き抜け

Photo: Katsumasa Tanaka



杉本博司 / フロント

Photo: Katsumasa Tanaka



鈴木ヒラク / 各客室にはアート作品を展示

photo: Shinya Kigure

客室

ヘリテージタワーには、英国の著名デザイナー ジャスパー・モリソン、イタリアの建築界の巨匠 ミケーレ・デ・ルッキ、レアンドロ・エルリッヒ、藤本壮介による4つのスペシャルルームをご用意しました。それぞれの作家が、ひとつの客室を作品のように内装設計を一から手がけた、世界にひとつだけの空間です。

その他の客室のデザイン・設計は藤本壮介によるもので、穏やかな色調の中に、素材へのこだわりやディテールが楽しめます。グリーントワーの客室にはバルコニーがあり、タワーを覆う植栽との一体感を覚えます。

ベッドマットレスには国内外のラグジュリーホテルに採用されているサータブランドを、カーテンはテキスタイルデザイナー、コーディネーターとして活躍している安東陽子がデザインし、備品はスタイリストの長山智美が厳選しました。各客室にはそれぞれ異なるアート作品がしつらえてあり、毎回異なる空間に泊まることがリピート滞在の醍醐味にもなります。環境、衛生面への配慮に重きを置き、プラスチック製品、ビニル包装を最小限に留める姿勢を大切にしています。またミニバーでは地元水上の名水「雪花水」及びソフトドリンクを無料提供。1階「the LOUNGE」営業時は、ラウンジのドリンクメニューからルームサービスをご利用いただけます。

■客室情報

客室：10タイプ、25室。グループの宿泊ゲストのために、コネクティングルームもご用意。

スペシャルルーム x4

ジュニアスイートルーム

エグゼクティブルーム

ヘリテージタワー デラックスルーム

ヘリテージタワー スーペリアルーム

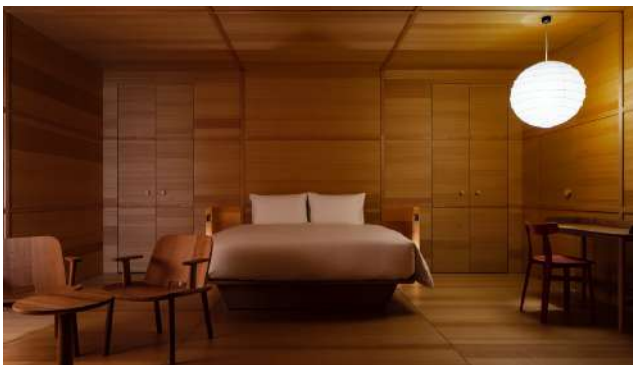
グリーントワー デラックスルーム

グリーントワー スーペリアルーム

客室料金：30,000円～（消費税・サービス税別）

客室面積：25㎡～

<スペシャルルーム>



ジャスパー・モリソン ルーム



ミケーレ・デ・ルッキ ルーム



藤本壮介 ルーム



レアンドロ・エルリッヒ ルーム

客室

<ヘリテージタワー>



ジュニアスイートルーム

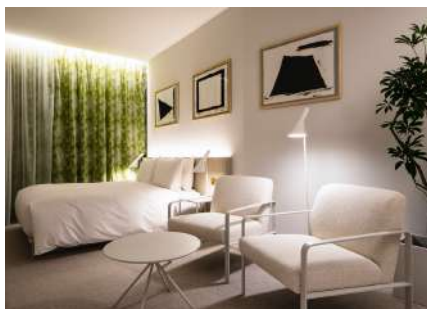


エグゼクティブルーム



デラックスルーム

<グリーンタワー>



デラックスルーム



スーペリアルーム

the RESTAURANT

「白井屋ホテル」のメインダイニングである「the RESTAURANT」は、ミシュランガイド東京で2つ星を獲得した青山のフレンチレストラン「フロリレージュ」のオーナーシェフ川手寛康が監修、地元群馬出身の片山ひろが、フロリレージュをはじめとする国内外の名店での2年間にも及ぶ研修を経てキッチンに立ちます。群馬の生産者を訪ね、恵まれた自然のもとで育まれた食材を吟味し、群馬の食文化を独自の解釈で再構築する一皿一皿は、白井屋ホテルが提供するグローバル・キュジーヌです。またその日の料理に合わせたドリンクペアリング（ノンアルコールも対応可）をご用意しております。オープンカウンター席のみのしつらえで、料理人の技も味とプレゼンテーションの美しさと共に楽しめます。

■the RESTAURANT

場 所：白井屋ホテルヘリテージタワー1階

メニュー：おまかせコース 8品 12,000円（税・サービス料10%別）～

ドリンクペアリング 7,000円（税サービス料10%別）

ノンアルコールペアリングもご用意。

予約番号：027-231-2020

営業時間：年中無休 17:30-23:00（20:30 ラストオーダー）

店舗面積：75.22㎡



the LOUNGE

「白井屋ホテル」の圧巻の吹き抜けにあるオールデイダイニング兼ラウンジ。レアンドロエルリッヒのインスタレーション「ライティング・パイプ」を眺めながら、様々なシーンでお使い頂けるスペースはまさに「街のリビング」。地元の食材を活かしながらも「驚きのあるまちのリビング」を目指し、「ビーフカレー」や「サンドイッチ」など誰もが馴染みのあるメニューが驚きのあるプレゼンテーションで登場。世界のコーヒーシーンに絶大な影響力を持つ、オーストラリアにおけるスペシャリティコーヒーの草分け的存在「Single O」の豆を採用したコーヒーを群馬県では初めてご提供します。

■the LOUNGE

場 所：白井屋ホテルヘリテージタワー1階

予約番号：027-231-2020

営業時間：年中無休 07:00-22:00（21:00 お食事ラストオーダー 21:30 ドリンクラストオーダー）

席 数：約63席

店舗面積：118.18㎡

白井屋の歴史

明治初期には絹産業におけるイノベーションを興し日本近代化の先駆けとなった前橋、そのまちを江戸時代より彩ってきた旧宮内庁御用達「白井屋旅館」は森鷗外、乃木希典などの多くの芸術家や著名人に愛されました。しかしながら1970年代にホテル業へと転換するも、中心市街地の衰退とともに2008年に廃業を余儀なくされ、惜しまれながらも白井屋は江戸時代から続く300年の歴史に幕を下ろしました。その後取り壊しの危機にあった白井屋ですが、2014年に前橋市の活性化活動「前橋モデル」を主導する田中仁財団の活動の一環として、その再生プロジェクトがスタートしました。全体のデザインと設計を手がけたのは建築家 藤本壮介、またレアンドロ・エルリッヒをはじめとする国内外の様々なクリエイターが賛同し、5年の歳月をかけ大改修と新棟建設が行われ2020年12月に「白井屋ホテル/SHIROIYA HOTEL」として新たに開業します。



明治初期の白井屋旅館

江戸時代より大火/戦災などにより改築を重ね、現在の建物(旧館)は1970年代に建て替えられたRC造4階

主なプロジェクトメンバー

建築・内装設計：藤本壮介

客室デザイン：ミケーレ・デ・ルッキ、ジャスパー・モリソン、レアンドロ・エルリッヒ、藤本壮介

照明デザイン：東海林弘靖（ライトデザイン）

テキスタイル：安東陽子

備品コーディネーション：長山智美

サインージ・アートディレクション：nanilani

レストラン監修：川手寛康（フロリレージュ）

レストラン設計：甲斐晋介（エスキス）

植栽監修：齊藤太一（Solso）

アクセス

群馬県前橋市本町 2-2-15

JR 両毛線 前橋駅より徒歩で約15分/タクシーで約5分

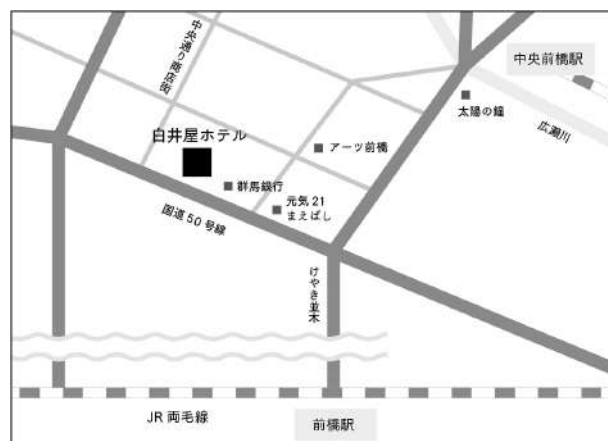
電車/新幹線

東京-高崎：JR 上越・北陸新幹線で約50分

高崎-前橋：JR 両毛線で約15分

自動車

関越自動車道「前橋IC」から約15分



白井屋ホテルに寄せて

藤本壮介
建築家

1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞（ラルブル・プラン）に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。2019年には津田塾大学小平キャンパス、マスタープラン策定業務のマスターアーキテクトに選定される。2020年、2025日本国際博覧会の協会事務局会場デザインプロデューサーに就任。主な作品に、ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン 2013（2013年）、House NA（2011年）、武蔵野美術大学 美術館・図書館（2010年）、House N（2008年）等がある。



白井屋のプロジェクトは、2014年から6年以上の時間をかけて、めまぐるしく変化し、成長してきたプロジェクトだった。最初に改修の本館に大きな吹き抜けを提案し、そこからコンセプトが膨らみ始めた。床を解体し、時間を重ねてきた力強い既存躯体の柱梁が現れたとき、この屋内広場のような大きな吹き抜けが、街の人と世界中からやってくる人が出会う場所になり、様々なモノや活動を受け入れることができる予感を感じた。プロジェクトが進むにつれて、実際に世界中のアーティスト、デザイナー、街の人々、前橋市のまちづくりの活動が白井屋に関わっていくことになった。新館の丘のアイデアも、計画中に前橋に移設された岡本太郎の太陽の鐘がきっかけとなって生まれている。多様な人やモノ、活動を受け入れ、巻き込み、巻き込まれながら、前橋の街とともに白井屋がこれからも変化し、成長していくことを願っている。

レアンドロ・エルリッヒ
アーティスト

1973年アルゼンチン生まれ。ブエノスアイレスとモンテビデオを拠点に国際的に活躍するアーティストで、金沢21世紀美術館の「スイミング・プール」で知られており、森美術館での体験型インスタレーションは記録的な来場者で、話題を集める。知覚的枠組みを通じて、人間の空間との関わりを探究する活動を展開している。

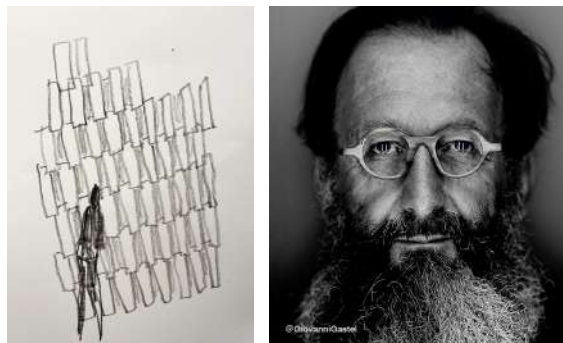


建設中の SHIROIYA HOTEL を初めて訪れたとき、既存の構造物を残しながらまったく新しいものを生み出すという、ソウ（藤本壮介氏）の斬新なアプローチに感銘を受けました。解体から生まれる創造——それはまさにクリエイティビティの本質ともいえますが、ここではそれとは逆の不思議なプロセスを目の当たりにした気がしました。ソウの作業を見ていると、この建物は、既存の形に新しいアイデアを取り入れることで非常にユニークな成果が生まれ、他に類を見ないものになるだろうと実感しました。結果として、元々の建物部分をダイナミックに開削して生まれたスペースでは、空っぽの空間と、そこに漂う空気もつ本来のパワーが浮き彫りになっています。その瞬間、私はイタリアの作家イタロ・カルヴィーノの小説『見えない都市』の中にいるような気がしました。この物語では、建物自体は目には見えないけれど、建物を構成するパイプや電気管は見えるといった不思議な景色が描かれています。そこから私は今回の建築のディテールを目に見えない生き物の血管のように思い描きました。これが、建物全体に走る《ライティング・パイプ》の背後にあるインスピレーション源となっています。建築とは、人間の想像力の表れであると同時に、今この瞬間の創造性、そして日常生活との接点となるアートの力の出発点でもあるのです。

白井屋ホテルに寄せて

ミケーレ・デ・ルッキ
建築家

1951年イタリア、フェッラーラ生まれ。1970年代から前提的な建築、デザインを牽引。世界の名だたるメーカーの名作家具や照明器具のデザインを手がける一方で、文化的ランドマークとなる建築プロジェクトを国内外で展開。思想家や革新家などさまざまな専門分野にわたる人材からなる AMDL CIRCLE の創設者で、2018年より、暮らしの質を物理的かつ知的に向上させる、ヒューマンスティックな建築とデザインを模索し、共有する建築「Earth Stations」の活動に積極的に取り組んでいる。



The 2725 Elements (Room)

日本家屋の屋根にもよく使われる「板葺き（いたぶき）」とは小さな木の板を集めて作る技術のことで、驚くほどシンプルなアイデアに満ちています。この技術の起源は未だにわかっていませんが、世界中のさまざまな地域で時代を超えて使用され、生産されてきました。

私たち建築家は、秩序だった趣や美意識を生み出すこの板葺きでデザインすることに特別やりがいを感じます。板葺きをいくつも使うことで、複雑に湾曲した球や波のかたちの設計が可能になり、硬い表面をやわらかく見せることができます。板材の間に隙間を設けることで、建築家は空間と距離を自由に行き来し、織物やカーテンのようなシースルー効果を生み出すことができるのです。

私たちはこのアイデアを SHIROIYA HOTEL のプロジェクトに起用しました。小さな部屋のコーナーや縁の部分のみを茅葺き状のカーテンで構成し、全体的にやわらかさや軽やかさを感じさせる空間になっています。ここでは、インテリアや彫刻にとどまらず、部屋そのものをアートインスタレーションにしたいと考えました。そのため、2725枚の板材を採用しています。通常、ホテルの部屋名は数字で識別されるのが一般的ですが、この部屋は特別な数字を持っている。そこで「2725 エレメンツールーム」と名付けました。色合いもダークなトーンを選んだことで、表面の素材感と互いに調和し、穏やかな静けさ、休息、そして良質な睡眠を誘うような感覚を伝えています。

ジャスパー・モリソン
デザイナー

1959年ロンドン生まれ。ロンドンのキングストン工科大学、王立美術大学（RCA）でデザインを修め、ベルリンの芸術総合大学で1年間学ぶ。1986年、ロンドンに設計事務所、オフィス・フオー・デザインを設立。Vitra、Flos、Alessi、マルニなどのプロダクトから電化製品、公共空間のデザインにいたる幅広い活動を手がける、世界で最も影響力のあるデザイナーのひとり。



改装前の白井屋ホテルを訪問した際、建物の状態がかなり老朽化していて、あまり歓迎される雰囲気ではありませんでした。今回部屋をデザインするにあたって、反対に温かみのある、守られているような感じのする部屋にしたいと考えました。そこで、壁のパネルを木製にしようと考えているうちに、木の箱のような部屋のアイデアが浮かびました。大きな窓からは吹き抜けが見え、ホテルの共有スペースの雰囲気を楽しむこともできますが、よりプライベートな空間にしたい場合、木製の折戸を閉めれば、アート作品を運搬するために作られたような梱包用の箱のような部屋になります。そのとき、箱の中の大切な中身はあなた自身なのです！

メディアお問い合わせ先

■お問い合わせ先

pr@shiroiya.com

070-3858-7580 (PR 担当：守田美奈子)

時節柄、一堂に会する記者発表会およびプレス内覧会を控えてさせていただきました。
個々に内覧を受け付けておりますので、ご希望の方は上記のメールアドレスにご連絡ください。

■オフィシャル画像のご利用に際し、下記のクレジットをご明記ください。

お手数ですが、ご掲載の折は、白井屋ホテル PR のメールアドレスまでご一報ください。
よろしくお願い申し上げます。

白井屋ホテル または SHIROIYA HOTEL
写真家のクレジット：木暮伸也 または Shinya Kigure
田中克昌 または Katsumasa Tanaka

PRESS RELEASE 掲載画像リンク

<https://is.gd/xB0iRv>

その他の画像リンク

<https://is.gd/bVdoby>

白井屋ホテル株式会社

白井屋ホテル株式会社（本社：群馬県前橋市、代表取締役：矢村 功）は、前橋のまちなか活性化を目的とし、ホテル及び飲食店などの企画・運営を担う組織として2019年12月12日に設立しました。

■概要

所在地： 群馬県前橋市本町 2-2-15
電話番号： 027-231-4618 (代表)
資本金： 9,500,000 円
社員数： 35 人(アルバイト含)
代表取締役： 矢村 功

白井屋ホテルでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ホテル館内の感染対策（アルコール消毒・ソーシャルディスタンスの確保・換気）、従業員の健康状態の確認、お客様へのご協力をお願い（マスク着用・検温・アルコール消毒・健康状態の確認等）を行い、約款などの情報をデータ化してタブレット表示し、タブレット消毒の徹底を介して、安心してご利用いただけるよう適切な感染対策を実施しております。

前橋のアートデスティネーション『白井屋ホテル』企画展

The Place of Encounter ~白井屋ホテルの8人の作家~

前橋の「白井屋ホテル」の2020年12月12日(土)の開業を記念し、白井屋株式会社(本社:群馬県前橋市本町、代表取締役:矢村功)は、東京都港区六本木のフィリップス東京(東京都港区六本木6-6-9ピラミデビル4階)にて、プレオープン企画展<The Place of Encounter ~白井屋ホテルの8人の作家~>を開催します。



木暮伸也《Shiroiya_2010231444》2020年、インクジェットプリント
KIGURE Shinya, *Shiroiya_2010231444*, 2020, inkjet print

群馬県前橋市に今年12月にオープンする白井屋ホテルは、人々がアート作品や食を媒介に集う場所になります。利根川と赤城山など豊かな自然に囲まれ、アートによって変貌しつつある街に新しい拠点が生まれます。そこに作品を展示する群馬県在住の作家8人が、ひと足先に東京で展覧会をおこないます。それぞれまったく異なるメディアによって記憶、物質、風景、身体と関わる作品を制作し、国内外で活躍している作家たちです。環境や都市との関わりを考え直すこの時期に多くの方に見ていただきたい作品が並びます。

参加作家:牛嶋直子/小野田賢三/木暮伸也/鬼頭健吾/竹村京/白川昌生/村田峰紀/八木隆行

白井屋ホテル:<https://www.shiroiya.com> (2020年11月2日開設)

11月17日(火)プレオープンパーティーのお知らせ

展覧会開催前日より、ささやかながらプレオープンパーティーを開催いたします。各作家も参加予定ですので、気軽にお立ち寄りいただけますと幸いです。

会場:フィリップス東京(ピラミデビル4階)

日時:11月17日(火) 17:00-19:00

*当日は駐車場のご用意がありません。公共交通機関でご来館ください。

■展覧会概要

展覧会名: The Place of Encounter ~白井屋ホテルの8人の作家

会場: フィリップス東京

会場住所: 東京都港区六本木6-6-9ピラミデビル4階 電話番号: 03-6273-4818

会期: 2020年11月18日(水)~12月17日(木)

開場時間: 10:00-17:00 土日閉館

観覧料: 無料